

右京区基本計画策定委員会
第2回 地域活動と安心安全のまちづくり部会 摘録

日 時： 平成21年7月27日（月）
午前10時～正午
場 所： 右京区役所5階大会議室1
出席者： 永橋部会長 ・ 高岡委員
高屋委員 ・ 中川委員
中沼委員 ・ 林委員
原委員 ・ 松井委員
宮崎委員

オブザーバー
寺本 演夫 氏
(社会福祉法人嵐山寮 理事長)

暮らしやすい生活環境づくり

- これまで右京は地下鉄東西線の六地蔵への延伸が先になる等、基盤整備が遅れてきたが、ようやく太秦天神川駅が開業した。あとは、観光シーズンの嵐山の交通渋滞などが問題であるが、パークアンドライド（自家用車を駐車し、公共交通を利用して目的地まで移動する方法）の取組が広がり、一定の成果が出ている。福祉の面では、様々な面でよくなってきていると感じている。右京区はよいところである。

地域活動の活性化・担い手の育成

- 自治連は基本的に経済面で苦しいが、助成を受けるなど一定の費用の確保が可能な地域もある。太秦ではそこにマンパワーも加わり、自治連も一生懸命に頑張っている。
- 地域のネットワークの構造を確認するため、地域の方の動きや関係がわかるような図がほしい。図化することで、人材育成など補強が必要なところなども見えるのではないか。
- 地域の方が、地域に対して理解度が高く、しっかりと動いている面が強い。よく使われるのが、「好きだからやっている」という言葉である。
- 地域の活動は「お金」にならない、という風潮があるが、ある程度の年齢を重ねると、労働より「人のために動く」ことに対する価値が高くなる気がするし、時間もできる。仕事を持つ若い世代に、休みの日も人のために動けというのは難しい。
- 右京区の強みとしては、人と人のつながりや、やりとり、団体間の交流、キーパーソンの存在などが挙げられるのではないか。
- 10年前は、若い女性ですぐに仕事に出る人も少なかったが、今は状況が違う。世代交代については、今活動されている高齢の方が引退したいと思っても、若い世代の人材が少なく難しい。
- 私の地域の社協では、地域女性会、民生児童委員などが中心となって動いており、そこに体育振興会や交通安全協会の方たちに入ってもらっている。活動ボランティアを募集すると、大勢の応募がある。地域の中で特技のある人を呼び、講師になってもらうこともあり、経費削減に

もつながっている。

- 以前のPTA組織は、地域で活動する組織との関係づくりを避けていたところがあり、若い世代と高齢者との関係構築ができなかった。ただ、そういった関係があったのは特定の地域に限定されるかもしれない。しかし、民生活動などに携わると、地域活動についてもよく理解でき、最近では、PTAと地域組織の関係についても考え方が変わってきている。現在では両者がともによい雰囲気連携できている。
- 主任児童委員の制度ができたとき、委員との関係構築を拒んだ学校があった。話し合いを行い、今では全ての学校に受け入れてもらっている。学校も、地域に見守ってもらうことが必要な時代になった。PTAは若い世代が経験するボランティアともいえる。地域を担う人材が活動する組織として目を向けていくべき。
- 活動の手ごたえ、のようなものが活動を長続きさせる秘訣かもしれない。
- 我々のような団塊の世代はボランティア活動には抵抗が少ない。若い世代の活動がネックになるが、諦めてはいけない。PTAの役員は、地域活動の人材としても有望である。我々の地域では現役のPTA役員に自治連活動へ参画してもらっている。以前は学校と地域も距離をおいていたが、今は違う。地域と学校との関係を密にしていくことが重要。自治会離れは進んでおり、退会する人があり、また加入者も減っている。特に賃貸の集合住宅はその傾向が顕著である。中には、自治会への入会方法を知らない人もいる。
- 今の人材は、町内会長を1年で辞めたがる。町内会長が1年で代わると、活動のノウハウが蓄積されない。1年目の反省を元に、次の年の活動ができない。従って、活動のレベルとしては、現状維持か、下がっていくことが多い。
- 町内会の組長になっているが、地域活動に携わるきっかけは、地域の運動会に体育振興会から誘われたのがきっかけ。やはりよい町内だ、と感じることができた。また、規模の大きな集合住宅であれば、そこだけで町内会をつくっているところもある。そういったところとの協力関係の構築はどうしていきべきか。

地域住民相互の関係づくり

- 200世帯ほどある大規模な集合住宅は、世話をしていくのは大変。単身者が多いケースもあるかもしれない。
- 我々の地域では、新しく地域に来られた方を、地域に引っ張ってくるような活動を続けている。その成果もあって新旧住民の関係は良好。
- 一年でも町内会の組長をやれば、地域のネットワークができる。町内の行事があれば手伝いにも行くだろうし、少しの期間でも地域で活動すれば、みんなと仲良くできる。
- 環境活動では、「学校」の存在が重要になってくる。例えば給食の残りで肥料をつくって、その肥料で野菜を作り、野菜市をすると、父母もやってきてくれる。
- 京都では、昔ながらの地域の力が脈々と受け継がれている。
- 他の地域の人からは、京都の人は「いけず」と言われることがあるが、右京区では、新旧住民の仲も良い。小学校はこれからの地域活動のキーとなるのでは。子どもと地域の関わり、保護者と地域の関わりや人材確保の面などが絡んでくる。